

国際協力



駒ヶ根から世界へ！ 訓練所開設40周年



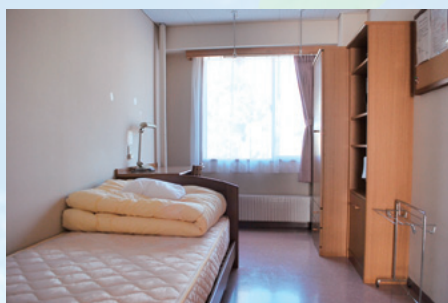
開設当初の全景写真



現在の訓練所全景



昭和 54 年開設当初の
中庭での朝の集い



現在の居室

2019年、駒ヶ根青年海外協力隊訓練所は、開設40周年を迎えました。

40年前の駒ヶ根訓練所はどんな雰囲気だったのでしょうか。当時の写真やデータをもとに時代背景も含め、振り返ってみましょう。

当時の建物は今の半分程度しかなく、いちばん大きな施設は現在の「小講堂」でした。第一期生である昭和54年度1次隊100名の入所式や修了式はここで行われました。当時は、東京の広尾訓練所で1ヶ月間の「導入訓練」があり、その後3日間の「座禅」のあと、駒ヶ根訓練所で3ヶ月間の「語学集中訓練」を行ってから、再び広尾での修了式と壮行会を経て派遣となっていました。しかし、昔も今も変わらないものは、早朝6時半からの「朝の集い」とラジオ体操・ジョギングです。その後、訓練生の増加に伴い、1982年(昭和57年)から個室ではなく、一室2名(2段ベッド)となりましたが、2000年(平成12年)には宿泊棟が増築され、再び個室になりました。

1983年(昭和58年)には、「駒ヶ根協力隊を育てる会」が発足し、今に至るまで訓練所を応援してくださっています。

1994年(平成6年)には福島県二本松市に二本松訓練所が開所し、2006年まで(平成18年)広尾、二本松、駒ヶ根の3訓練所が同じ訓練計画のもと、同時並行で訓練を実施していました。



昭和 57 年頃の
2 段ベッドの居室

2006年(平成18年)からは、シニア海外ボランティア(SV)と青年海外協力隊との合同訓練が始まり、2017年から日系社会ボランティアも駒ヶ根に合流するなど訓練生の多様化も進みました。修了者数は累計で2万人を超えています。

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

開設40周年記念事業 開催

今年度は、「駒ヶ根から世界へ!訓練所開設40周年」をキャッチフレーズに記念式典やイベントを計画しております。これまでお世話になった駒ヶ根市をはじめ、みなこい地域の皆さまに感謝するとともに、訓練所から巣立っていったJICA海外協力隊OB、OGたちも参加し、訓練所が地域で果たしてきた役割について振り返り、「訓練所の価値」や「海外協力隊事業の価値」について一緒に語り合いたいと考えております。

まず、6月22日の「大使村まつり」では各国大使に訓練生と交流していただき、10月26日には、駒ヶ根訓練所で「駒ヶ根訓練所開設40周年記念式典」が予定されています。

年間を通じてどなたでもご参加いただけるイベントとして、駒ヶ根訓練所の食堂で「エスニック・ランチ」を実施します。協力隊員の派遣国の料理をぜひ味わって下さい。

長野県内各地で実施予定の「写真展」では、JICA海外協力隊が派遣国で撮影した貴重な現地の写真や隊員活動パネルのほか、訓練所の様子を紹介する写真も展示します。また、普段目にする機会が少ない開発途上国をテーマにした「映画祭」も県内複数会場で計画しておりますので、

ぜひご参加ください。イベントの詳しい情報は、駒ヶ根訓練所のホームページやFacebookに随時掲載されます。

さらには、40周年記念企画として、駒ヶ根市のPRキャラクター「こまかつぱ」がJICA海外協力隊員とともに世界各地を旅する「こまかつぱの世界旅行」を実施します。世界中で活躍する隊員から送られてくる「旅するこまかつぱ」と派遣国の文化や名所の様子を、JICA駒ヶ根のFacebook等で多くの皆さまにご紹介していきたいと思っておりますので楽しみにしてください。



こまかつぱの世界旅行

「大使村まつり」への想い

(公社) 青年海外協力協会 (JOCA)

安部 晋弘 (昭和58年度3次隊 スリランカ 稲作)

2018年3月にJOCA本部は東京から駒ヶ根に移転しました。昨年6月に開所式を行い、同時に「大使村まつり」が実施されることになり、9ヶ国の大使館(うち3ヶ国から大使)に参加していただきました。大使村は駒ヶ根市長の発案により訓練所がある街をアピールするねらいがあります。

今年は全国の協力隊OB・OGの代表が集まる6月に訓練所開設40周年のイベントとして大使館(大使、書記官)や訓練生などとの意見交換を行い、夕方の懇親会は場所をJOCA本部前のある通りでテントを張って行います。そこには、地域の皆様とともに在住外国人の方々とその雇用主や地域の首長にも参加を呼びかけ、多種多様な人々がお互いを気遣いながら楽しく暮らしている様子を実感していただきたいと願っています。

また、10月に恒例の「みなこい国際広場」があり、訓練所開設40周年公式行事も開催されますが、ここにはさらに多くの大使館をご招待する計画です。なお、在住外国人は「地球人ネットワーク」という任意団体が運営している日本語教室に通っている外国人30人ほどを主な対象にしています。「地球人ネットワーク」の皆さまには、訓練の一つ協力活動(地域実践)にも関わっていただいております。訓練所がある街としてその特徴を生かした活動をこれからも続けていきたいと思っています。



市からのプレゼント



昨年度の集合写真

協力活動（地域実践）は、地域での協力活動の実践を通じて派遣後の活動に必要なスキルを養う訓練です。



パン食い競争

2018年度4次隊の訓練生たちは、3月9日（土）に駒ヶ根市地域おこし協力隊の藤井篤大氏とともに、小学生以下の子どもを対象としたイベントを実施しました。

当日集まった人数は、訓練生たちの予想を大きく上回る総勢25名。イベント内容は、駒ヶ根市の名産品を用いた「牛乳パン食い競争！」と、体を動かしながら学習する「英語を使ってゲーム」です。

子どもたちは銀座通りで牛乳パンに向かって元気よく走り出し、親御さんたちはゴールする瞬間のシャッターチャンスを逃さないようスマートフォン片手に待ち構えています！

イベントに参加した子どもたちから聞こえてきたのは、「とっても楽しかった！牛乳パンを食べるのが楽しみ！」「英語でゲームをするのが面白かった。」といった大満足の声。

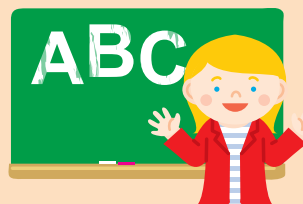
訓練生たちは地域活性化という活動先の目標を達成するため、イベント実施までに様々な準備を行い、イベント当日も臨機応変に屋内や屋外に移動しながら運営に取り組む姿が印象的でした。地域の方々との交流を通じて得た学びを振り返り、これから世界中に派遣されて取り組む海外協力活動に生かす良い経験にして欲しいと願っています。



英語ゲーム

シリーズ

語学訓練こぼれ話



駒ヶ根訓練所の「語学訓練」は訓練カリキュラム全体の約65%を占めています。6年間学習しても英語を全く話せるようにならなかった私でも、駒ヶ根訓練所で70日間のスペイン語訓練を受けて現



▲ネパールとTVレッスン

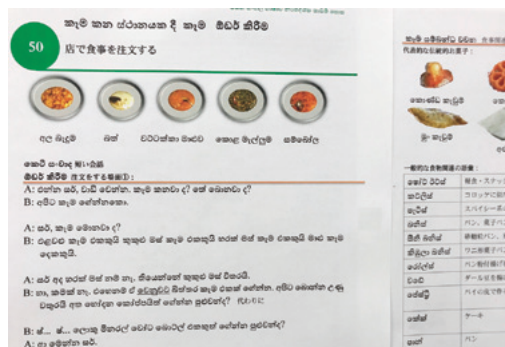
地に行ったとき、英語よりもずっとスムーズにスペイン語を話すことができるようになっていました。私が中学校・高校で受けた英語の授業は読み書きが中心でした。しかし駒ヶ根訓練所で学ぶのはサバイバルランゲージ。「生きるための語学」を学んでいます。もちろん文法などの基本項目も学びながら、現地到着後の基本的な自己紹介、道の聞き方、買い物やレストランでの注文法など、生活に密着した表現を学んでいきます。そして講師と訓練生、あ

るいは訓練生同士で、習った表現を積極的に使って会話していきます。その繰り返しで現地に着いてすぐ生活を開始できる語学力に役立っています。

さらに英語、スペイン語、フランス語のクラスでは、派遣後の自分の活動をイメージして、専門用語や職種に特化した表現を駆使してプレゼンをします。実践的な学習の機会が多く与えられます。

また、ネパール語、シンハラ語、ウズベク語、キルギス語では、現地JICA事務所とテレビ会議で繋ぎ、現地スタッフと会話をしたり、先輩ボランティアのプレゼンに参加してモチベーションを高める取り組みも行っています。（鈴木 聖哉）

▶シンハラ語のテキストより





を多めに摂取するなど、昔とは異なる食文化を取り入れ、健康を意識する人が増えてきました。



生徒達と調理実習

このような食文化を持つモンゴルで、私は料理隊員として、地方の職業訓練校に配属されています。私の主な活動は、同僚の先生と協力して生徒と一緒に調理実習を行うことですが、赴任当初は、野菜に対する抵抗が強い生徒が多く、苦勞をしました。しかし、授業を繰り返すなかで生徒は自然と野菜を食べてくれるようになり、やりがいを感じています。加えて、私が新たな料理を紹介することで、先生たちも様々な料理に興味を持ち始めてくれていることが、とても嬉しいです。

明日の心配をするより今を楽しく生き、私に対して家族のように暖かく接してくれるモンゴルの人には、日々感謝の気持ちでいっぱいです。残りの任期も、モンゴルの人と幸せな時間を分かち合えたらいいなと思っています。

皆さん、サエン バエノー(こんにちは)。

私の任地であるモンゴル国ドンドゴビ県は、モンゴル中南部に位置し、有名なゴビ砂漠の近くにあります。朝焼け、夕焼けがとても綺麗で、限りなく広い大空を見渡すことができる素敵な場所です。

モンゴルの人々は遊牧民として家畜を放牧



はじめてモンゴルの馬に乗ったとき

しながら、大地と共に生きてきました。その背景から、モンゴル人の食文化は「肉と乳製品」が中心です。地方では今でも昔ながらの食生活が続いていますが、最近では首都を中心に食に対する意識に変化が見られ、野菜

帰国したJICAボランティアの方

2年間の活動
お疲れ様でした!!



2016年度3次隊

とくたけ の はら

徳竹 野原 さん (長野市)

●派遣国: マラウイ
●職種: コミュニティ開発



村の皆さんと

皆さんはマラウイをご存知ですか? 私は最初名前すら知らない国でした。タンザニアの南側にある小さな内陸国で、北海道と九州を合わせた

程の国土面積。その約5分の1を固有種が多く生息し、世界遺産にもなっているマラウイ湖が占めています。主要産業は農業、経済の指標で測る世界ランキングでは、下から3番目。下位にある国々は治安情勢も問題がある国も多い中、穏やかで治安も比較的良いマラウイは、根っからのお金がない国と言われるようです。

私はコミュニティ開発隊員として、生活水準・収入の向上を任務に、バイクで村を巡回していました。まず現地の人々が何を必要としているのか、回覧板を使ったニーズ調査から活動を始めました。自己紹介や日本の話や豆知識、そして要望を書いてもらうコーナーを作り、そこに「現金収入が欲しい」「パンやビスケットなどを作りたい」「裁縫を学びたい」という声があったので、現金収入に繋がる加工食品や手工芸品を作ってみようという提案し、村の

人と試行錯誤し製作しました。「マラウイの人の手で、マラウイ産のものにこだわり、マラウイのために」というコンセプトで、バナナペーパーや、マラウイの布で作るバックや小物雑貨、これらを外国人の行き来がある隣町で、お土産品として売り始めました。その他に薪の軽減や子供の火傷防止のために、日本にも昔あったようなかまどを伝授したり、環境配慮や節約のために灰と水で倍増させる石鹸作りをしたり、近所の小学校でゴミの分別を伝える環境教育や家の周りのゴミ拾いを子供達としたりしました。

村で見る光景はまさに、電気がない、水は井戸や川へ汲みに行く、裸足で駆け回り、畑仕事は鋤一本。では、これが嘆かわしい事かということ、私の中ではそういう気持ちばかりではありませんでした。現金収入改善に繋がる活動もしましたが、やはりお金では計れない物差しが沢山ありました。人間の本来の身体力を持ち、小さな悩みより、目の前の家族や自然との密接な関わりの中で生きているマラウイの人々には、羨ましく感じる場面も沢山ありました。日本との違いから学び、お土産品の活動も続け、これからもマラウイと繋がりのある生き方をしていきたいと思っています。



子供たちとの活動の様子

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2018

テーマ「世界の幸せのために私たちができること」

このエッセイコンテストは、次の世代を担う中学生・高校生を対象に、開発途上国の現状や開発途上国と日本との関係について理解を深め、国際社会の中で日本、そして自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的として実施しています。

今年で中学生の部は23回、高校生の部は57回を数え、中学生の部37,748点、高校生の部34,738点、総数72,486点ものご応募をいただきました。

このうち長野県内の応募数は、中学生の部で1,311点、高校生の部で1,677点です。

今年度は、最優秀賞6名のうち、4名を長野県の中学・高校生が占めました。さらに、国際協力特別賞の中学生の部でも、長野県の生徒1名が受賞しました。

この他にも11名が機関長賞、佳作、OB会長賞を受賞しています。また15校が学校賞や特別学校賞を受賞しました。皆さんおめでとうございます！

来年も、中学、高校生の皆さんの感性豊かな作品が寄せられることを楽しみにしています。



最優秀賞をとった佐々木さん、青木さん、斎藤さん、向山さん（左から）

【最優秀賞】

・中学生の部

外務大臣賞／駒ヶ根市立東中学校 佐々木 創 「信号機」

文部科学大臣賞／東御市立北御牧中学校 青木 緋音 「一本の糸が切れないように」

・高校生の部

外務大臣賞／佐久長聖高等学校 斎藤 舞 「『オークン』カンボジアが教えてくれたこと」

文部科学大臣賞／長野県伊那北高等学校 向山 創太 「一粒のお金が世界を笑顔に」

【国際協力特別賞】／飯田市立鼎中学校 永井 匠海 「受け継いでいきたい考え方」

国内機関長賞／信州大学教育学部附属松本中学校 加藤 優和 「あなたの良さ。私との違い。」

佳作／信州大学教育学部附属長野中学校 石井 友規 「今の私にできること」

信州大学教育学部附属長野中学校 中島 愛優 「私でも届けられた笑顔」

松本市立旭町中学校 木村 嶺太 「僕を動かした言葉」

OB会長賞／信州大学教育学部附属松本中学校 山崎 ひなた 「髪を切る一世界には程遠いけれど」

特別学校賞／駒ヶ根市立赤穂中学校

学校賞／箕輪町立箕輪中学校、富士見町立富士見中学校、飯田市立高陵中学校、大町市立第一中学校、信州大学教育学部附属長野中学校、信州大学教育学部附属松本中学校、松本市立奈川中学校、安曇野市立豊科南中学校

国内機関長賞／佐久長聖高等学校 鈴木 彩貴 「世界の幸せのために私たちができること」

佳作／長野県上田高等学校 小池 友実 「世界の幸せのために私たちができること」

OB会長賞／長野県篠ノ井高等学校 風間 唯月 「平和の声を伝える」

東京都市大学塩尻高等学校 味澤 楓花 「『自分ができること』を考える前に」

東京都市大学塩尻高等学校 波田 英雪 「世界中の人々が学べるようになったら」

長野県上田高等学校 吉住 咲良 「一個のジャムが・・・」

特別学校賞／長野県下伊那農業高等学校、長野県篠ノ井高等学校、長野県松川高等学校、長野県上田高等学校

学校賞／長野日本大学高等学校、長野県岡谷東高等学校

長野県内の受賞者一覧

中学校の部

高校生の部

シリーズ 世界から、地域で活躍！信州で活躍する元協力隊員に聞きました！

松川町在住 ^{しら} ^{みず} ^ほ 白井 瑞穂さん

平成26年度3次隊
派遣国：コスタリカ
職種：日本語教育
出身：徳島県



Hola(やあ)! 帰国から1年8ヶ月、私はいま長野県松川町でホストタウン推進員としてコスタリカとの交流事業を担当しています。「ホストタウン」とは、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、参加国と人的・文化的・経済的交流を深める地方自治体のこと。協力隊時代の経験やネットワークを活かして、コスタリカの方を招いての料理体験や柔道交流会の開催、イベントでのコスタリカブース出展、スペイン語教室、出前講座等を行っています。あまり馴染みのない国ですが、「素敵なお所だね」「行ってみたい」と興味を持ってくださる方が増えており嬉しいです。



スタディツアー小学校交流で折り紙

今年3月には町の高校生10名を派遣するコスタリカ・スタディツアーを初めて開催しました。高校生は半年間、訪問先や地元について学事前学習を重ね、現地ではJICA支所や大使館訪問、小学校・高校・大学での学校交流、ホームステイ等に取り組みました。多くの人々との出会いの中で、子ども達は自分の意見や思いを伝える力、自主的に行動を起こす力がつき、彼らの変化・成長には驚かされます。

今後もより多くの方にコスタリカを発信し、相互交流を深め、2020年には皆でコスタリカを応援したいと思います。



コスタリカ映画上映会にて国紹介



JICAと南信州をつなぐ

研修員(高森町からの出向)

遠山 景太

はじめまして、こんにちは。長野県の南に位置する高森町役場から2年間の期限付きで、4月からJICA駒ヶ根で勤務しています。

私の研修期間のテーマは「JICA×地域活性」です。

地域の活性化という視点から、JICAのリソースと高森町・下伊那地域の地域資源を生かしあい、混ぜあい、そして長い将来まで続いていくような関係構築を目指します。

余談ですが、私はJICAの存在をラオスで知りました。ラオスの方たちは「ジャイカ!ジャイカ!」と声をかけてくれましたが、恥ずかしいことに20歳の私はJICAの存在を知らませんでした。「日本人なのにジャイカを知らないなんて!」と投げられた言葉が悔しく、すぐに日本に帰って調べました。

そこからは駒ヶ根訓練所で開催されるイベントに参加し、参加し、気がつけば協力隊の応募書類を黙々と準備していました。

「ジャイカ」で勤務ができる様々なご縁に感謝し、限られた期間ですが精いっぱい取り組みます。JICAそして高森町を支えていただいている皆さま、よろしくお願いします。

Information

駒ヶ根訓練所開設40周年記念イベント

▶ エスニック・ランチ「エクアドル料理を食べよう!」

5月25日(土) 12:00~14:00(仮)
 会場: 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所 料金: 500円
 申し込み締め切り: 5月16日(木) 人数: 先着30名

▶ 写真展「JICA海外協力隊が見た景色や出会った人びと」

5月27日(月)~6月28日(金) 9:00~15:00(月曜から)
 会場: 八十二銀行駒ヶ根支店 ※観覧無料 金曜のみ

6月14日(金)~6月21日(金) 10:00~20:00
 会場: MIDORI長野 ステーションビルの3階「りんごのひろば」
 ※観覧無料

▶ 大使村まつり~すくすく縁日~

6月23日(日) 10:00~13:00
 会場: 駒ヶ根市銀座商店会

40周年記念イベント 今後の日程

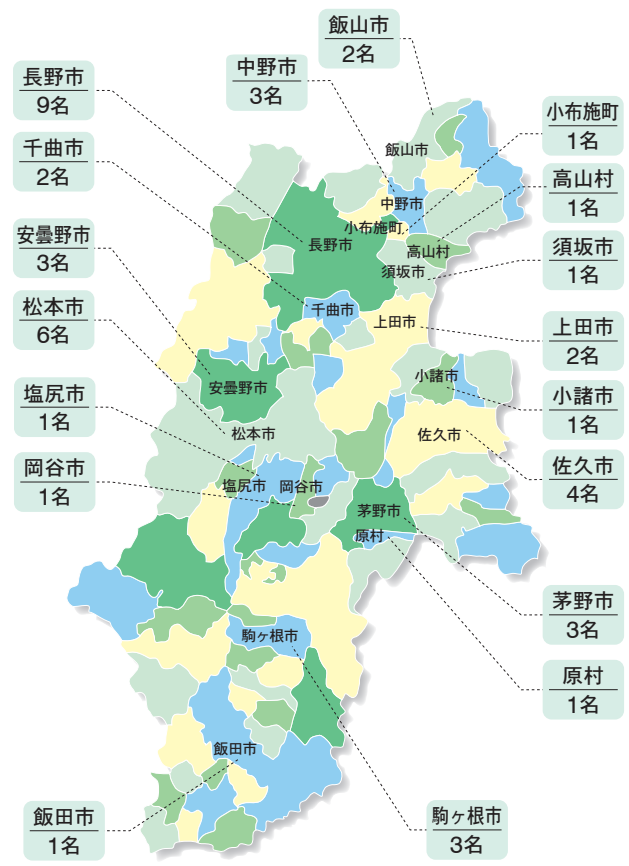
開催日	行事・イベント
6月下旬・9月下旬・10月下旬	エスニックランチ (駒ヶ根訓練所食堂)
6月下旬・10月下旬・12月下旬	料理教室・語学体験(駒ヶ根訓練所で訓練する言語)
7月~12月下旬	写真展(駒ヶ根市・長野県内各地)
9月下旬・10月下旬・2020年1月下旬	開発途上国映画および海外協力隊映画上映会 (駒ヶ根市、みなこい自治体、長野県内各地)
10月下旬 (みなこい週間)	大使村まつり (駒ヶ根市内「ばとな」前) 前夜祭・各国大使館と市民、訓練生との意見交換会ほか
10月26日	駒ヶ根訓練所開設40周年記念式典
10月27日	みなこいフェスティバル協力隊週間 国際広場(駒ヶ根駅前大通り)

※イベントの詳しい情報は、駒ヶ根訓練所のホームページ、Facebookに随時掲載されます。

派遣中JICAボランティア

(2019年4月現在)

※各地方自治体へ表敬訪問をした人数=JICAボランティアの数としています。



長野県関係者 JICAボランティア派遣実績

2019年3月5日現在

①青年海外協力隊員 派遣中 41名 累計 1030名	③日系社会青年ボランティア 派遣中 1名 累計 27名
②シニア海外ボランティア 派遣中 2名 累計 83名	④日系社会シニアボランティア 派遣中 1名 累計 6名

発行 独立行政法人 国際協力機構
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
 TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
 E-mail jicakjv@jica.go.jp
<https://www.jica.go.jp/komagane/index.html>

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!
<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン
 配信希望の方は jicakjv-kouhou@jica.go.jp
 までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりな情報をリアルタイムでお届けします。